

サービス3 Disaster kit

1



被災直後の被災者サポート

被災直後の被災者サポート



被災直後の被災者にフォーカスし、
アドホック通信を用いて支援するサービス

2011年3月・・・

東日本大震災が発生。

発災後、基地局の復旧に時間を有した。

- 従来の通信方式

- キャリア通信

- 基地局を介して通信が行われる

基地局が損壊すると通信が行えない！



- 避難所の場所が確認しづらい
- 家族や友人の安否確認ができない

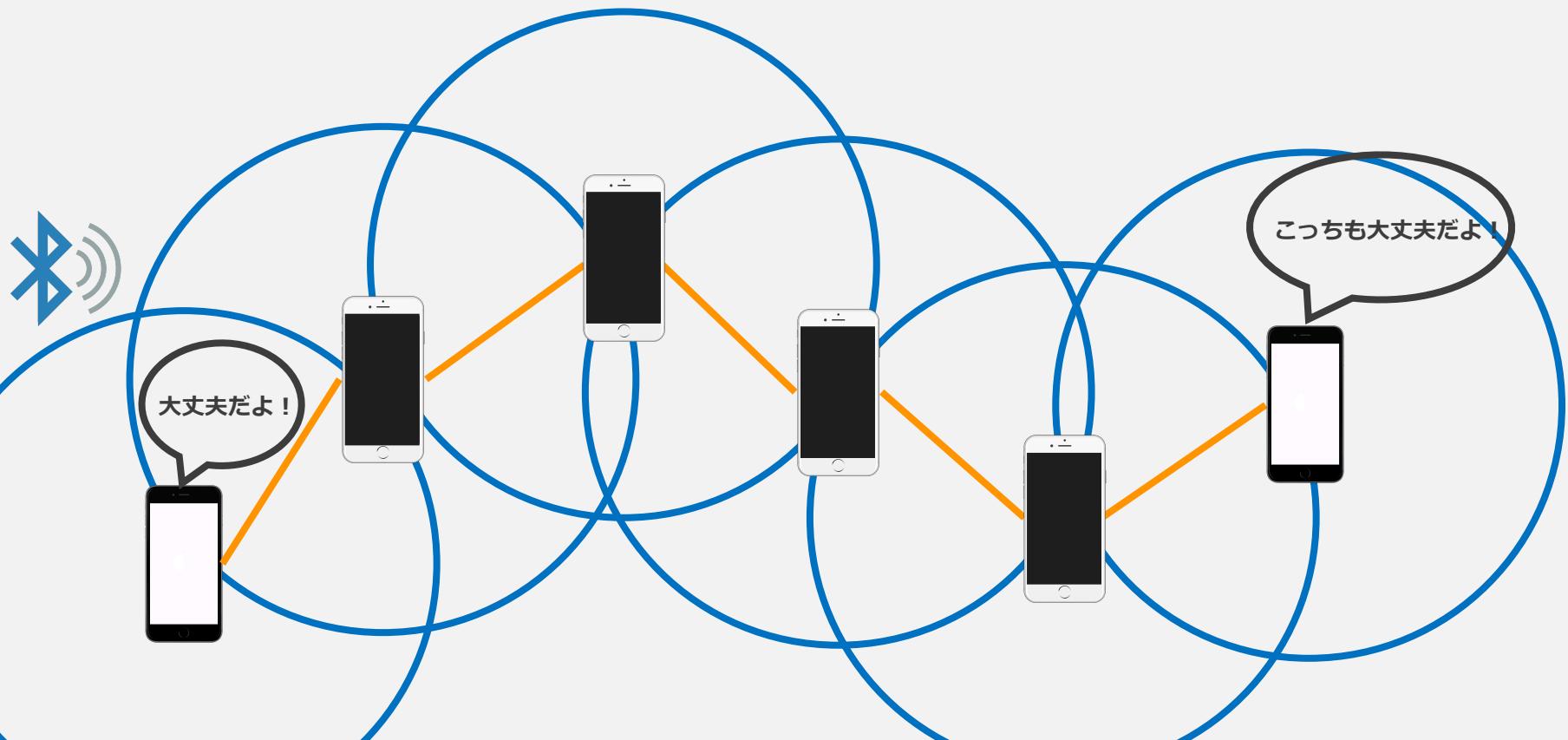


被災直後でも繋がる通信があれば良いのでは？

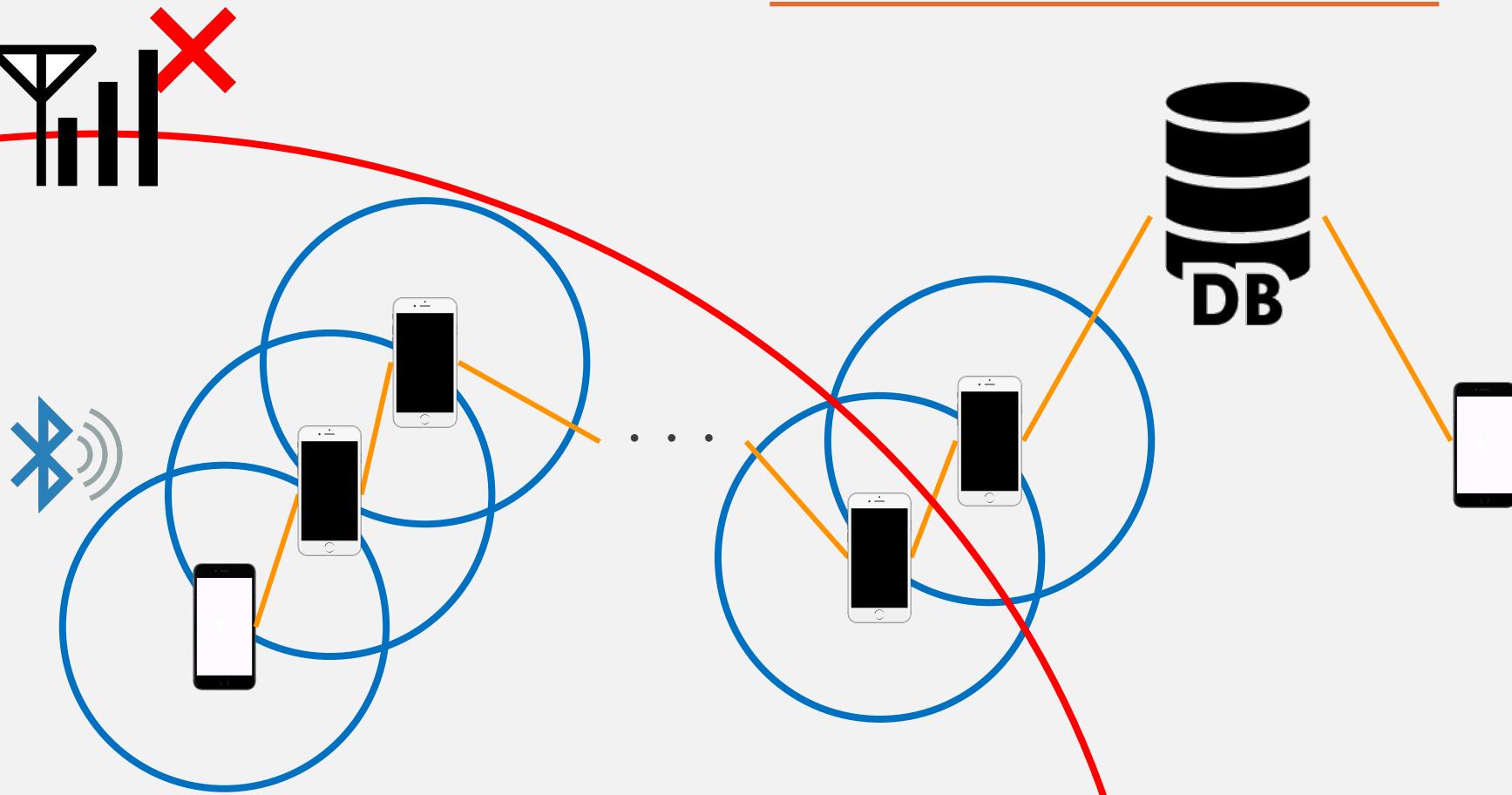


被災直後の被災者サポート

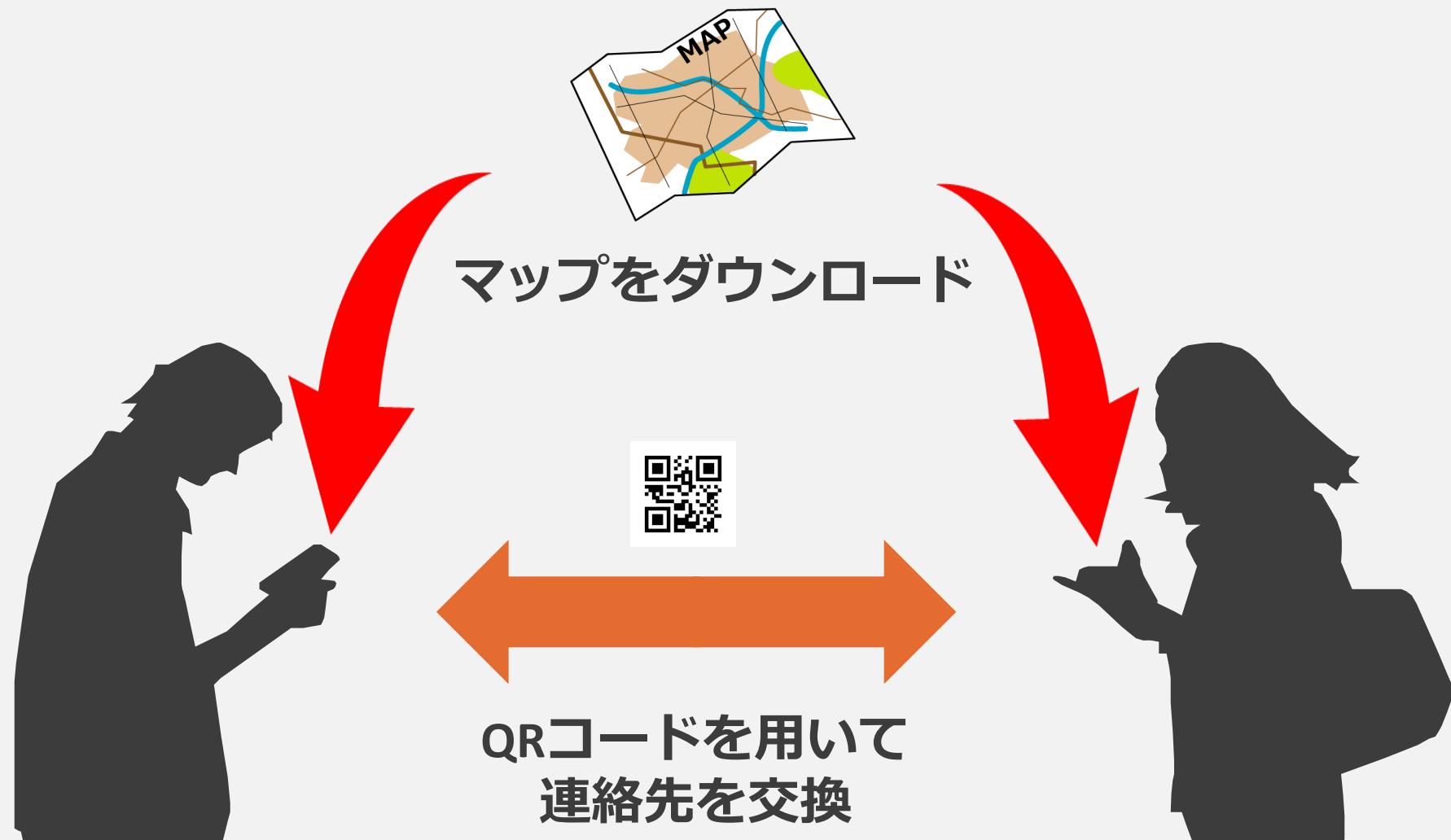
Bluetoothによるアドホック通信で 被災地内の通信をサポート



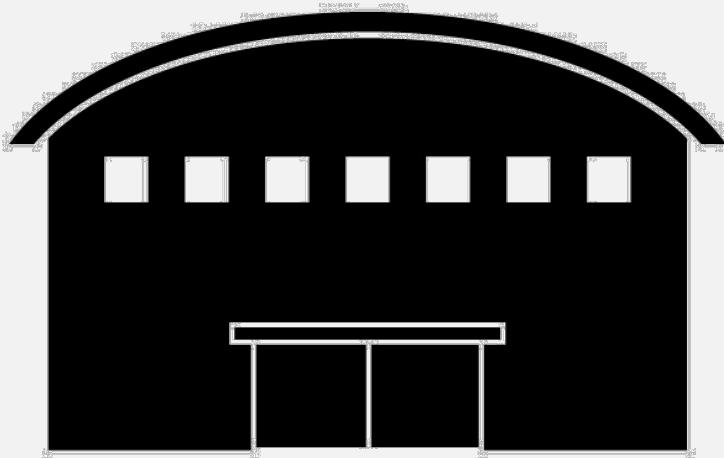
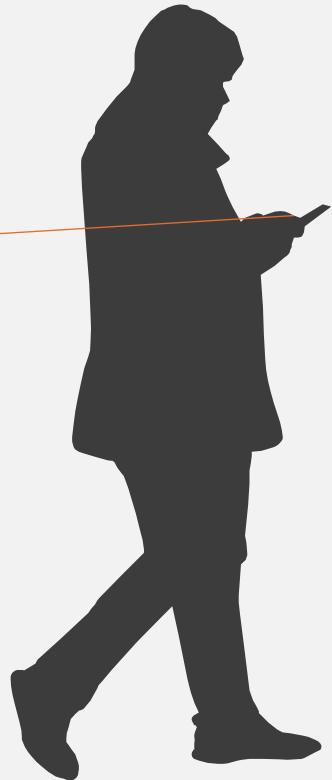
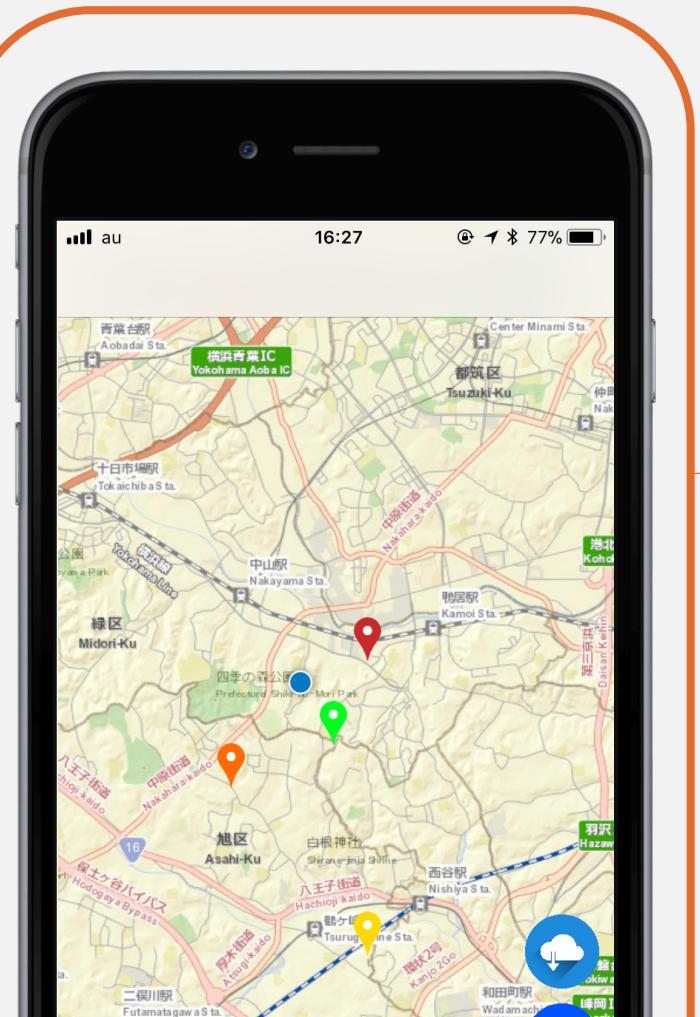
アドホック通信とキャリア通信を 組み合わせたハイブリッド通信



- ユーザは災害前に事前準備が必要

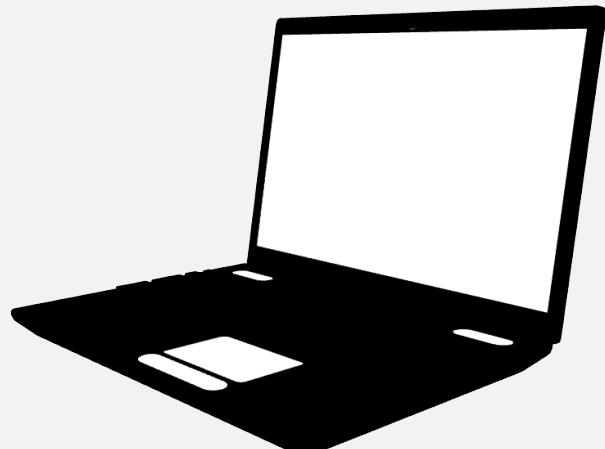


- 自治体から送られてくる情報を基に被災者は避難



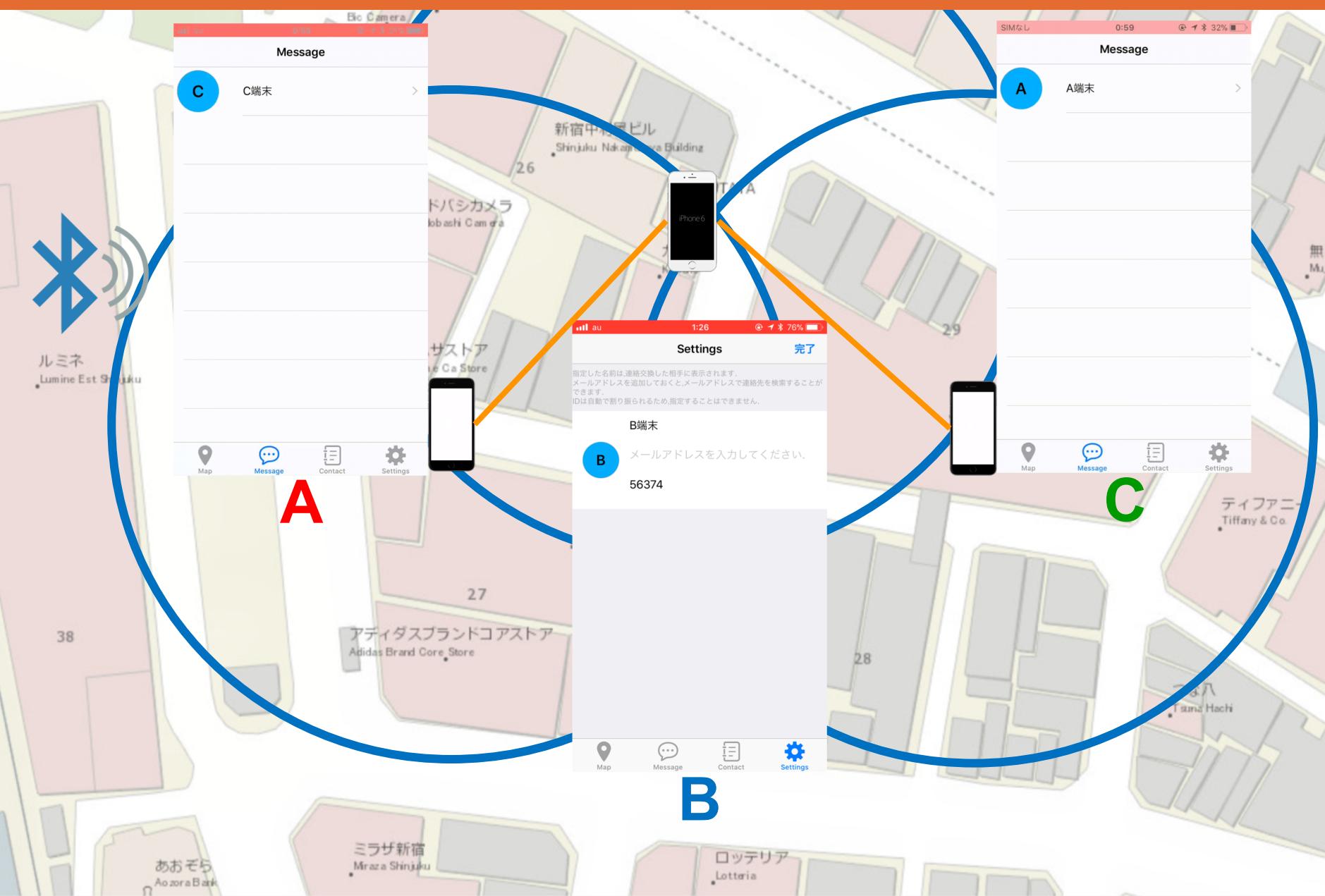
- サービスとして求められる技術が高い
- 理系大のみでメンバーを構成
- 技術に集中して活動したい

ビジネスモデルを構築せず、サービスの実現を重視



デモンストレーション

12



開発工数

13



iOS

見積 59人日

✓ 実働 69人日



Android

見積 65人日

✓ 実働 48人日

- 水ありますよ通知機能の削除
 - 自宅に水が余っていることを通知する機能を発案
→合同合宿で多くの意見をもらい、実装を断念
- 見積もりを2度越えるオフラインマップ表示機能
 - 担当者の見積もりが甘く、実装しきれなかった。
→他のメンバーが請け負い実装したが、
工数が見積もりを超過



- アドホックネットワークの拡大
 - 本サービスが普及し、より多くの自治体に導入してもらうことで大規模な災害にも対応することができる
- 被災者を支援する人をサポート
 - 各避難所の状況を被災地外に伝え、被災支援活動をサポート